

J A就農支援センターでの1年間の研修を修了した第4期研修生4人が、それぞれJ A幹旋の遊休ハウス等を活用し、管内で就農しました。高山建人さんと大月直美さん、大月繁雄さん、金谷栄作さんがイチゴ生産者として新規就農し、農作業に汗を流しています。

地域農業の次代担う

J A就農支援センター第4期生
キングオブストロベリー
4人が世界一の「あまおう」目指し出航！

高山建人さん

大月直美さん

大月繁雄さん

金谷栄作さん



研修生4人はイチゴ生産者の茅島博敏講師から1年間、熱のこもった指導を受けました。



妻：美穂さん

高山建人さん(36・筑後市)

①大木町②筑後市長崎③介護④アート鑑賞・制作⑤ストレッチ⑥20 a ⑦次世代の人たちが農業に魅力を感じて「自分も就農したい！」と思えるような農業経営をやっていききたい

地域貢献できるような仕事がしたいと思い就農を目指し始めました。就農する方法として、先進農家さんのところへ修行に行くことも検討したのですが、同期の仲間ができることや早くからJAふくおか八女との関わりが作れると思い就農支援センターを選びました。入所して1番良かったことは、茅島先生の教え子になれたことです！

就農1年目は、定植までトラブル続きで大変でした。育苗期に200株以上の苗に炭疽病が発生したり、大雨で2回もイチゴ苗が浸水したり。炭疽病は早期に発見して早期に対処すれば被害は広がらないとセンターで教わっていたので、すぐ対応できました。また、茅島先生から「病気、自然災害にも負けないしっかりした丈夫な苗を作りなさい」と指導を受けてい

たので、苗が浸水に負けることなく無事定植までこぎつけることができました。茅島先生がいつもおっしゃっていたのですが「イチゴは手を掛けた分必ず応えてくれる」の意味が少し分かった気がしました。

筑後地区のイチゴ生産者の先輩方がとても気にかけてくださって、何でも相談に乗っていただいたり、アドバイスをくださった方がいます。本当にありがとうございます。青年部でグループLINEを作っているんですけど、そこで「この農薬とこの農薬どっちを使った方がいいですかね？」と質問すると、「どういう効果を期待してる？」「だったらこっちの方がいい」と的確に答えてくださるんです。農業がやりやすい環境を与えてもらっていて本当に感謝しています。

未来の礎になるような営農、みんなが憧れて自分も就農したいと思えるような営農を目指してこれからも励んでいきます！

未来のアグリスタ ～「農」への挑戦者たち～

金谷栄作さん(36・八女市)

①長崎県②八女市本③自動車修理工場④ドライブ⑤毎朝、子どもたちの登校を見送ってから仕事へ⑥20 a ⑦作業の省力化、時間短縮を図り、より高品質なイチゴ作りを目指す

八女市に家を建てたことで、近所に農家さんがいっぱいいて農家さんたちと触れ合っているうちに農業に興味が出てきました。そんなとき、Wingの就農支援センター1期研修生の記事を見て応募を決意しました。その後3年間で、就農資金を貯めて4期生として入所させてもらいました。

センター卒業後、以前キクを作られていた遊休ハウスを借りることができ、1年目のイチゴ栽培がいよいよ始まりました。イチゴ用へ栽培環境を整備するため時間が掛かり苦戦しましたが、なんとか無事に定植を終えることができました。幸い、ほ場がセンターに近いので、茅島博敏先生が帰りに寄ってアドバイスをいただけたりのありがたいですね。ただ僕がいないときに見に来られることもあり、サボれないというか、程良い緊張感で栽培管理ができています(笑)。

先人のイチゴ生産者たちが努力、試行錯誤を重ねて「博多あまおう」の栽培方法を確立してくださったおかげで今、自分たちはこの「博多あまおう」を安定生産できるようになっています。そんな先人の方たちに感謝をしながらイチゴ栽培に取り組んでいます。また、管内のイチゴ生産者さんたちは皆さんプライドが高いので、ふくおか八女産の「博多あまおう」は高品質で際立って市場人気が高いんです。自分たちも夫婦2人で技術を磨き、自信を持ってふくおか八女のイチゴ「博多あまおう」を出荷できるように頑張ります！



妻：紗由里さん



大月繁雄さん(38・立花町)

①久留米市②八女市矢原③工場勤務④釣り⑤特になし⑥21 a ⑦夫婦2人でできるだけ長くイチゴ栽培を続けていきたい

イチゴ農家の友人がいて、話を聞くうちに就農に興味が出てきたので、広川町役場へ相談に行ったところ、JA就農支援センターを紹介してもらいました。農業の「夫婦で一緒にできること」と「収入面」に魅力を感じました。

私たちは完全に農業初心者として研修に入ったのでセンターで基礎から学べて本当に良かったです。もちろん、1年間で全ての知識・技術を習得するのは難しいです。あとはこれからの経験を積み重ねて習得していければと思っています。卒業後も茅島先生に電話で相談したり、JA青年部の先輩方にも場を見に来てもらってアドバイスをいただいたり、皆さんの指導、支援を受けながら日々の農作業に励んでいます！

大月直美さん(36・立花町)

①久留米市②八女市矢原③主婦④音楽鑑賞⑤特になし⑥21 a ⑦大好きなイチゴをたくさん作りたい

主人が就農支援センターを見学に行くときに一緒についていったのですが、そのときに見た研修施設の素晴らしさ、研修生の熱心さに感動し、私自身、出産後のタイミングで、イチゴを食べるのも大好きだったので、私もイチゴ作りを学びたいと思い願書を出しました。

農業初心者にとって農業知識を学ぶ、教えてもらう場所、機会がなかなか無いので特に座学がためになりました。

農作業のやり方やタイミングなど、主人と意見を出し合いながら進めています。2歳の息子がいるので、日曜日など主人1人に農作業を任せることもありますが、出来る限り一緒に作業をして、お互い身体を壊さないように頑張っています！